

## 特定の3世代による子どもの遊び文化の変化についての研究

### A study of change in child's play culture by the third specific generation

1K07B212-7

森野未来

指導教員 主査 寒川恒夫先生

副査 斉藤修平先生

#### 【目的】

私は、サークル活動等で小学生と触れ合うようになり、子どもの遊び文化に興味を持つようになった。今の子どもたちは、鬼ごっこなど昔から変わらない遊びをする一方で、玩具は日々進化をしており、その玩具によって遊び方は変化してきていると感じている。そして、私が今の子どもたちを見てそのように思うのであれば、私の祖父母や親は子どもの頃にどのように遊び、またその遊びの変化をどのように捉えているのかを明らかにしたいと思った。

そのため、本論文では特定の3世代の子どもの遊び文化を調査し、その変化を考察する。ここでは特に変化が分かりやすい玩具に注目して調査を行う。そして、親が自分の子どもの頃と比較して自分の子どもの遊び文化をどのように見ているのかについても調査を行い、子どもの遊び文化の変化を明らかにすることを目的としている。

#### 【方法】

調査方法は私の母方の祖父母、母、母の妹である叔母2人、従姉妹4人と私に聞き取り調査を行った。1問1答形式ではなく、子どもの頃に行った遊びについて自由に語ってもらう形式で調査を行った。

#### 【結果】

祖父は小学生の頃は外で遊ぶことが多く、あまり玩具で遊ぶことはなかったが、中学生ごろになり、鉄道模型に夢中になった。祖母は木でできたおままごと、ぬりえ、人形遊び等で遊んでいた。母は、チェーリング、ぬりえ、本格的なおままごと、リカちゃん人形、ひみつのアッコちゃんコンパクト等で遊んだ。私は、人形遊び、ゲーム、プラレール、アイロンビーズ、たまごっち等で遊んだ。2番目の叔母はチェーリング、リカちゃん人形、ママレンジ、ミルク飲み人形等で遊んでいた。その子どもである従姉妹たちは、リカちゃん人形、シルバニアファミリー、ぬいぐるみ遊び、たまごっち、アニメキャラクターの変身セット等で遊ん

だ。3番目の叔母はチェーリング、ヨーヨー、スライム、スーパーカー消しゴム等で遊んだ。その子どもである従姉弟のうちの姉は、シルバニアファミリー、ぬりえ等、弟の方は、テレビゲームとカードゲーム等で遊んだ。

親から見た自分の子どもの遊び文化については、進化した玩具を見て特にうらやましいなどと思う感情はなく、時代の流れだと感じていた。また、母は自分が子どもの頃にできなかった夢を子どもに玩具を買うことで叶えていたと考えていた。さらに、3番目の叔母は1人で遊べるような玩具が増え、今の子どもたちは同じ玩具を持ちたがると語っており、特に男の子は戦隊ヒーローもの等テレビの影響をととてもよく受けるため、毎年シリーズが変わるたびに新しい玩具を持ちたがると感じている。

#### 【考察】

調査を行った結果、遊びに対する意識の変化、親との関係、携帯する玩具、話題としての玩具などが子どもの遊び文化の変化として見られた。昔は遊ぶことをそれほど意識していなかったが、現在では約束を取り付けて遊ぶようになってきている。そして、昔は危険なことでも子どもが1人で遊んでいたが、最近では親が子どもに玩具を買うこと以外にも、子どもの遊びに親が関わってくるようになってきた。さらに、今ほどこへ行くにも玩具を持ち歩くようになり、みんなが同じ玩具を持たないと話題についていけなくなってしまっている時代になった。私はこれらの中には、一緒に遊ぶ仲間と時間と空間が減ってきていることが一因しているのではないかと考えている。

そして、私は最近の玩具は子どもの遊び方に影響を与えることが多いと思う。また、今の玩具は遊び方が決められてしまっているものが多いように感じる。そのため、玩具に遊ばれている状況が起こっているのではないかと思う。そのようななかで、自分で考えて遊べる玩具というものは今後も必要になってくると考える。